

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
 www.0255447777.com/i
 ホームページ
 www.kodomo-iin.com

ようやく秋めいてきました。夏は暑さが厳しく、さらに新型コロナウイルスで外出も控えていたと思います。やっと旅行にも行けるようになってきました。でも新型コロナウイルスには十分に注意していただきたいと思います。

う。そのように報道されると、同じく産後に大変な思いをしている方が、自殺という選択肢に進んでしまわないか心配です。けっしてそれが本当の解決にはならないのに。

このところ有名人の自殺が相次いでいます。私もテレビなどを通して知っている大好きな俳優さんが亡くなったと聞き、とても驚き、胸が詰まる思いです。



子どもたちのことも心配です。思春期の子どもにはなかなか受け入れることができないでしょう。赤ちゃんも、大きくなった時にそのことを知ってしまったら、自分を責めることにならないでしょうか。

ご家族の辛い思いはさぞかしでしょう。心よりご冥福をお祈りし、残された方々がお健やかにすごしていけるよう願っています。

私たちは日常の中でうまくいかないうちも、辛い気持ちになることがあります。そんな時に誰かに相談できればずいぶん楽になるでしょう。

ある方は産後うつかもと報道されましたが、どうなんでしょうか。それぞれに複雑なものがあり、自殺に至った原因は単純ではないでしょう。

当院では臨床心理士が「心の相談室」で対応しています。乳児健診の際に帯同していますので、何かありましたらどうぞお声かけください。

感染症情報

現在、子どもたちの間で大きな感染症の流行は起きていません。夏場にもいわゆる夏かぜ（ヘルパンギーナ、手足口病など）も全くと言っていいほど発生がなく、子どもたちの健康状態はとても良い状態のようです。季節の変わり目になり、感冒（風邪）のお子さんが少し目立ちました。体調管理にご注意ください。

新型コロナウイルス感染症は日本全体では小康状態のようですが、都会などではまだ発生が続いています。流行地との往来には、引き続き注意してください。またマスク、手洗いなどの個人での衛生管理もしっかり行ってください。

溶連菌感染症と**アデノウイルス性咽頭炎**が少数ですが発生しています。どちらも咽頭痛と発熱が特徴で、登園（登校）停止になる感染症です。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

水痘が一部の保育園で発生しています。1歳で2回のワクチン接種を受けているため、通常は重い症状にはならず、また大きな流行になることはありません。

感染性胃腸炎も若干の発生があります。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。これから寒い季節になるとより流行しやすくなります。手洗いなどを励行し、食品の衛生管理にもご注意ください。

風疹や**麻疹**の発生は当地ではありません。

インフル予防接種のご案内

- ただいまネットでご予約を受け付けています。
- 平日昼間は今月7日から、土曜午後は24日からです。
- インフルエンザが大きな流行にならないよう、多くの方の接種をお願いします。



<http://www.0255447777.com/i/>

今月の予定

院長出務

- 上越市夜間診療所出務 21日 (副院長)
- たにはま保育園健診 7日
- 聖母保育園健診 28日
- 県立看護大学小児科学講義 14、21日
- 上越有線放送 「健康ライフ」 20日
- FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)
- 感染症情報 (毎週)**
- FM上越: 木曜午後1:35頃～
- 上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

予防接種

10月からの変更点

法律に基づく予防接種について、今月から変更がありますので、お話しいたします。

まず**ロタウイルスワクチンが定期接種**になります。これまでは任意接種であり、親御さんのご負担で接種を受けてもらっていましたが、今月から全ての乳児を対象に、無料で接種を受けることができます。

対象になるのは**今年8月以降に生まれた乳児**で、生後6週から接種を行います。

ワクチンは2種類があり、ロタリックスは2回、ロタテックは3回の接種。互換性がなく、同じ種類を最後まで使います（効果には差がないとされています）。

飲む生ワクチンです。内服直後に吐き出してしまうこともあります。少量でも口の中に入れていれば効果が得られるために、再度飲み直すことはしません。

少数ですが、接種後に腸重積という副作用が生じることがあります。

顔色を悪くし、お腹を痛がり、嘔吐や下痢、そして血便になることがありますので、注意していきましょう。もしそのような症状があれば、直ちに主治医に相談してください。

予防接種の間隔についても変更があります。異なるワクチンを接種する場合、これまでは不活化ワクチンからは1週間、生ワクチンからは4週間空けていました。今後は**注射生ワクチンの次に注射生ワクチンを受ける時は4週間以上空ける必要はありませんが、それ以外の制限はなくなり**ました。

不活化ワクチンであれば、その後いつでも接種できます。注射生ワクチンであっても、次に受けるのが不活化ワクチンや経口生ワクチンであれば制限なしです。

そして今月から**インフルエンザ予防接種**が始まります。この冬場に新型コロナウイルスとインフルエンザが同時流行するようなことにならないようにも、ぜひインフルエンザワクチンの接種をお願いします。

当院では例年通りに接種を予定しています。

30年の歩み (5)

● 1999年2月 玄関の増改築

玄関を大幅に大きくする工事を行いました。大幅な工事は開院から2回目。それまでの玄関が手狭になり、約2倍の面積まで拡張。さらに、駐車場から玄関まで車いすやベビーカーのまま入れるスロープも造りました。

増改築を繰り返しているために開院当初の原型をとどめていない当院ですが、実はこの玄関ももう一度工事をしています。現在の形になったのは、これよりさらに10年後くらいになります。

ところでこの時の工事は、時期的には不本意で、患者さんにご迷惑をおかけしたかと思えます。冬場で患者さんが多い季節なので、緊急でもない限りは工事はしないのですが・・・

この工事は、実は公費で行われました。厚生省（当時は厚生省）の「初期救急医療基盤整備事業」の対象になり、工事費の大半を補助金でまかさないました。

当時、小児の救急医療体制が社会問題になっていました。とくに夜間や休日の救急医療を大きな病院が一手に引き受けているような状態は何かしなくてはいけない。そのためには、時間外の一次診療を受け持つ体制を社会の中に作っていくことが求められていました。当院は時間外は電話で対応し、昼間であれば救急車の受け入れもしています。さらに市の休日診療所に院長が定期的

に出務していることも、評価され、先の補助金支出が決まりました。ただし、年度内に完成しないといけないという「役所の論理」があり、仕方なく冬場に工事をしたというわけです。

今ある玄関は、その一部は税金で作られたという話でした。

● 1999年8月 病児保育について全国誌に投稿

週刊「アエラ」（朝日新聞社）の記事について気になったことがあったので投稿したところ、そのまま掲載されました。

記事というのは「保育園 vs. 母親 病気の子供をだれがみるか」（1999年30号）。表題から分かる通り、子どもが病気になった時に、保育園では預からない、でも母親は仕事があつてなかなか休めない。その両者がバトルをしているというものです。

現状では、働く母親は大変な苦勞を強いられています。ここに父親がでてこないこともおかしいと指摘しました。家庭も、社会ももっと変わっていく必要があります。

医療的なケアが必要な子どもたちもいるわけですし、子どもは風邪などで体調を崩すのはよくあること。建前を貫くと、間に立つ子どもたちが不幸だとも書きました。

投稿文の最後に病児保育のことも紹介しましたが、当時はまだ当院は取り組んでいませんでしたが、実はこの数年前から真剣に考えていました。そして、この2年後（2001年）にわたぼうし病児保育室を開設しました。その経過はいずれまた書きます。

☆当院ではロタワクチンは主に「ロタリックス」も使用していましたが、今後は「ロタテック」も接種できます。受付時に選んでください。